

4 はにわ豆知識
歴史を体感!
「ハニワまつり」

「ハニワまつり」は、古代のイメージを現代に再現する試みとして開催しており、毎年100体ほどを市民の皆さんが作り、祭り当日に野焼きをします。野焼きでは700から800℃前後まで温度が上がり、炎に包まれたハニワはとても幻想的です。現在は約400体のハニワが「ふれあい緑道」に並べられ、いろいろな形・愛らしい表情のハニワは訪れる人の目を楽しませてくれます。



皆さんも次回のハニワまつりに参加して、古代のロマンに触れてみませんか。



3 はにわ豆知識
はにわ
埴輪の歴史に
触れてみよう

二子山古墳から出土した埴輪は、東山町の「下原古窯(しもはらこよう)*」でつくられ、生地川や八田川を下って運ばれたと考えられています。埴輪が運ばれたルート沿いには、現在「ふれあい緑道」が整備されています。

※下原古窯…トンネル状の「あな窯(がま)」で、窯の中で焼くと1000℃以上にもなることから、灰色の硬い埴輪や須恵器をつくることできたと考えられます。現在は、5つの窯が東山町に保存されています。



5 はにわ豆知識
受け継がれる
伝統と歴史

「ハニワまつり」は平成3年に始まり、毎年地域の皆さんと協力しながら開催しています。第6回までは三ツ又ふれあい公園で、第7回からは二子山古墳のある「二子山公園」に会場を移して開催しています。まつり当日は、舞台での出し物や勾玉(まがたま)づくりなど、野焼きの他にもいろいろな催しが行われています。



もっと知ろう!
「ハニワまつり」
の歴史

郷土の歴史や文化財への関心を深めるため、地域の皆さんと協力しながら開催している「ハニワまつり」。

今年は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止としましたが、皆さんに少しでも春日井の歴史や文化財に触れていただけるよう、古墳(こふん)と埴輪(はにわ)の歴史とともに、これまでの「ハニワまつり」を紹介します。

2 はにわ豆知識

はにわ
ココが違う! 春日井の埴輪

二子山古墳では、人物や馬、家など100点以上の埴輪が出土しました。出土した埴輪は、土器と同じような茶色ではなく、灰色で硬い当時の「須恵器(すえき)*」と呼ぶ焼き物と同じ焼き方がされています。このような埴輪は、当時、焼き物の産地であった春日井をはじめ、尾張地域における全国的にも珍しい特徴です。

※須恵器…古墳時代(西暦400年頃)に朝鮮半島より伝えられた焼き物で、それまでの野焼きで焼かれた土器の600~800℃を大きく上回る1000℃以上の高温で焼くため、はるかに硬く、吸水性が少ない焼き物です。

1 はにわ豆知識
春日井の
はにわ
埴輪のルーツは?

埴輪は、古墳時代(西暦350年~550年頃)に、祭祀(さいし)*の道具として古墳のまわりに並べた焼き物です。人物や馬などの動物、家などさまざまな形をしたものと筒状の円筒埴輪があります。市内でも二子山古墳をはじめ多くの古墳から埴輪が出土しています。

※祭祀…神々や先祖などをまつこと



二子山古墳から出土した、円筒埴輪や人形埴輪、馬形埴輪
展示場所: 中央公民館